

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①太田肇著『ムダな仕事が多い職場』筑摩書房 (196頁, 新書判)</p> <p>顧客に対する過大包装や過剰サービス、非現実的で無用な完璧主義、膨大な時間と労力を費やす会議やりん議制、中間管理職による細かい人事管理——本書は海外の企業に比べると、日本の企業は仕事の進め方にムダが多いと指摘。この傾向は生産現場よりもホワイトカラーの職場において著しく、職場のムダをなくし生産性を向上させるには、働き方を変えるだけでなく、仕事やサービスに対する考え方を根本的に方向転換する必要があると強調する。具体的には、グローバル競争をいっそう推進して企業への「外圧」を強めるとともに、欧米企業の産業別・職業別労働組合のように労働者の側が連帯して経営側に大きな影響力を持つなどして「内圧」を強める点が重要だと述べる。</p>	<p>③神津里季生著『神津式労働問題のレッスン』毎日新聞出版 (206頁, B40判)</p> <p>先の総選挙で政権交代という構想を描いた小池百合子代表が「希望の党」を立ち上げ、前原誠司代表の民進党との合流が取り沙汰された2017年秋。党内でもごく限られた人に相談された奇策を前に連合会長として立ち会った著者が、当時抱いた心境を赤裸々につづる。「希望の党は果たして政策・理念で連合と結び合える存在なのか？」——その後のてん末は周知の通りである。著者は「働く者の雇用と生活を守り向上させるために政治に関わることは不可欠。勇気をもって政治の世界に飛び込もうとする仲間を立法府に送りだすことを素直に考えたい」と強調する。本書の多くは週刊誌『サンデー毎日』の連載コラムが基になっており、大の犬猫好きなど普段は知れない人柄を明かす。</p>
<p>②佐藤博樹他著『新訂 介護離職から社員を守る』労働調査会 (221頁, B6判)</p> <p>仕事と介護の両立支援について、企業の関心が高まっている。現状では、介護に直面している社員数は多くないものの、仕事と介護の両立に不安を抱く社員が増えていることが背景にあるようだ。一方で、両立支援の必要性を感じつつも、具体的な取組方法に悩む企業も少なくない。両立支援を始めた企業のなかには、育児の場合と同じ考えでよいと誤解しているケースもあるという。終わりの見えない介護については、介護を社員が抱え込むことなく、仕事と両立することが求められる。本書は、介護離職から社員を守るためのヒントとして、社員の仕事と介護の両立支援を企業として取り組むことの必要性や、両立支援の基本的な考え方、支援方法などを具体的に紹介している。</p>	<p>④相原孝夫著『バブル入社組の憂鬱』日本経済新聞出版社 (231頁, 新書判)</p> <p>現在50歳前後のサラリーマンは、入社時期がバブル景気と重なり、大量採用された世代で、「バブル入社組」と言われる。会社のなかで管理職層の多くを占める彼らだが、評判がすこぶる悪い。例をあげると「お荷物なのに給料は高い」「(ポスト不足で)モチベーションが低い」「年下の上司にガマンできない」と評価は散々だ。著者は、コミュニケーション能力の高さ、根拠なき自信、強い愛社精神といったバブル世代の特徴的な点をあげ、これらをレジリエンス(逆境力)に昇華できれば、その後の職業人生をうまく過ごせるのではないかと指摘。肩書きへのこだわりが強いのもこの世代にみられる傾向だが、引退後のことも考えて、「自分が何をしているか」を重視すべきだと主張する。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2018年1—2月労働図書館受け入れ)

- | | |
|---|---|
| ⑤所正文著『人生100年時代の生き方・働き方』学文社(372頁, B6判) | ⑩筒井晴彦著『8時間働けばふつうに暮らせる社会を』学習の友社(171頁, A5判) |
| ⑥藤沢烈著『人生100年時代の国家戦略』東洋経済新報社(180頁, B6判) | ⑪野原啓子著『パワハラ・セクハラ・マタハラ相談はこうして話を聴く』経団連出版(140頁, A5判) |
| ⑦西日本新聞社編『新移民時代』明石書店(255頁, B6判) | ⑫金英著『主婦パートタイマーの処遇格差はなぜ再生産されるのか』ミネルヴァ書房(384頁, A5判) |
| ⑧藤内和公著『ドイツの人事評価』旬報社(343頁, A5判) | ⑬高橋幸美他著『過労死ゼロの社会を』連合出版(206頁, B6判) |
| ⑨稲田耕平他著『この1冊ですべてがわかる!健康経営実務必携』日本法令(274頁, A5判) | ⑭神谷悠介著『ゲイカップルのワークライフバランス』新曜社(206頁, B6判) |

労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書138,404冊、洋書44,325冊、和洋の製本雑誌25,759冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(266種)、洋雑誌(142種)、紀要(507種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

